

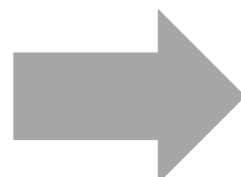
重大事故等対策 – 可搬型設備を使用する際のアクセスルートの頑健性 –



ワーキングの詳細
はこちらから

論点No.109

発電所で重大事故が発生し、ポンプ車などの可搬型の設備を使用する際、地震や津波で発電所内の道路が寸断されて必要な場所にアクセスできなくなることはないのか。



第21回ワーキング
(2022.7.29) で議論

ワーキングチーム検証結果

可搬型設備の配置場所から原子炉建屋までのアクセスルートは、道路の寸断に備えて複数のルートが確保されていること、また、障害物を除去可能な重機の配備などの対策が取られていることを確認した。

ワーキングチームにおける説明（抜粋）

○アクセスルートは、地震、津波その他の自然現象又は故意による大型航空機の衝突その他のテロリズムによる影響を考慮し、可搬型設備の保管場所から設置場所及び接続場所までのアクセスルートを複数設定。

○可搬型設備の保管及び通行への影響があるものとして、周辺構造物・タンクの倒壊、周辺斜面の崩壊・地すべり、液状化、地中埋設構造物の損壊を想定し、ホイールローダーの配備、路盤補強を実施することにより、可搬型設備の保管場所から原子炉建屋へのアクセス性を確保。

○路面の復旧操作、可搬型設備の展開・運用等の対応については、教育及び実働訓練により力量を確保。

障害物の撤去

障害物を除去可能なホイールローダー等の重機を配備



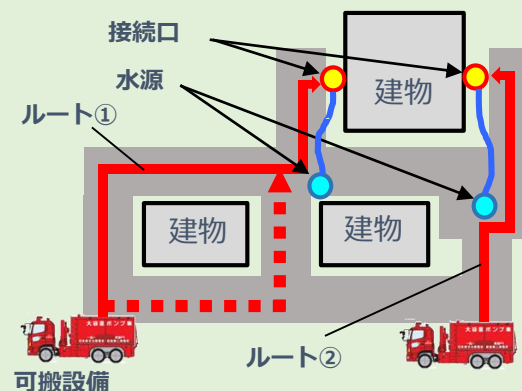
ホイールローダー



ホイールローダーによる
がれきの撤去の検証

複数のアクセスルートの確保

複数設定するアクセスルート（イメージ）



水源及び接続口に対し複数のルートを設定し、発生する障害を回避